

## 1. 教員および授業の概要

①教員名： 宮下 聖史 (Miyashita Seishi)

②担当科目

博士前期課程：開発政策総論

地域開発政策専門講義 1 (地域社会学)

地域開発政策研究指導 I～IV

③教員のプロフィール

・立命館大学大学院社会学研究科修了

・博士 (社会学)

・地域社会学専攻

・長野大学復興支援コーディネーター、長野県住民と自治研究所事務局長、立命館大学  
共通教育推進機構講師 (サービスラーニング担当) などを経て現職。

④所属学会

・日本社会学会、地域社会学会、環境社会学会など

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

・研究領域 社会学、コミュニティ論、地方自治論、ライフコース研究

・研究テーマ 人口減少下の地域政策と地域づくり

ポスト成長期・再帰的近代のもとでの多様な生き方やつながり方に関する調査研究

シチズンシップ教育の実践と方法論の探究

⑥研究指導方針

社会学を中心とした社会科学的な問題設定と方法、考察が適切に行われているかという点を確認し、問いかけをしながら指導を行う。研究テーマについては、指導可能な分野・テーマのなかで、院生の自主性に委ねる。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

社会学や地域政策・地域づくりに関するものを中心に、上記に示した分野・テーマの指導が可能である。

## 2. 研究業績リスト（近年の主要なもの）

### ①著書

（１）田中宏編『協働する地域』晃洋書房、2020年（執筆担当第4章「『田園回帰』の社会的背景と論理―戦後日本の都市化過程に着目して―」）。

### ②論文

（１）「『危機と多様化』の時代と“よいコミュニティ”―『分断社会』とサードプレイスの議論から考える―」『信州自治研』No.299、2017年。

（２）「医療福祉生協の地域包括ケアと地域まるごと健康づくりの検討―和歌山中央医療生協との共同による調査・研究―」『生協総研賞・第14回助成事業研究論文集』公益財団法人生協総合研究所、2018年。（共著）

（３）「地域おこし協力隊のキャリア形成と新しい地域コミュニティづくり―長野県地域おこし協力隊員と自治体担当者へのアンケート調査から―」『豊かな高齢社会の探究（調査研究報告書）』Vol.26、公益財団法人ユニバーサル財団、2018年。（共著）

（４）「地方創生政策の特徴・問題点と“よいコミュニティ”にもとづくこれからの地域づくり」『信州自治研』No.321、2018年。

（５）「サービス・ラーニングにおける『メモの書き方ガイド』の導入―ジャーナルの厚い記述につなぐために―」『立命館高等教育研究』第18号、2018年。（共著）

（６）「平谷村地域社会形成における移住・定住促進政策の意味」『信州自治研』No.333、2019年。

（７）「持続的な地域社会の形成に関する社会理論の検討」『立命館経済学』第68巻第5・6号、2020年。

（８）「『SDGs×地方創生』の社会学」『社会システム研究所プロジェクト「地域の自律の意味を考える」シンポジウム報告』『社会システム研究』第40号、2020年。

（９）「地域おこし協力隊のライフキャリアと地域協働―人口減少下での地方・農山村生活の社会的意味（１）―」『信州自治研』No.354、2021年。

（１０）「自治体別に見た人口増減の諸側面とライフキャリアにおける地域の選択に関する考察―人口減少下での地方・農山村生活の社会的意味（２）―」『信州自治研』No.355、2021年。

（１１）「地域づくりに関わる学びの意味の探究―『べき論』からの脱却を目指して―」『島根県立大学・島根県立大学短期大学部教職センター年報』第3巻、2022年。

（１２）「経験学習型教育における『書くこと』を通じた学生の学び―立命館大学サービス・ラーニング科目におけるリフレクティブ・ライティング―」『立命館高等教育研究』第22号、2022年。（共著）

### 3. 学生に対するメッセージ

研究とは、テーマに関する未知の領域を切り拓く営みです。そのことに真剣に向き合い、目的を達成することはとても大変なことです。しかしとてもやりがいのあるものです。こうした研究の世界に挑戦しようとする意欲的な院生の皆さんとの出会いを楽しみにしています。